

けんしょうじょうあと
建昌城跡

【所 在 地】姶良市西餅田字建昌城

【種 別】県指定史跡

【指定年月日】平成23年4月19日



上空から見た建昌城跡

鹿児島湾に注ぐ思川下流左岸、別府川の右岸に、北西から東南に延びる標高110m程を最高地点とする台地の東南側の先端部を主として立地している。享徳年間（1452～1454年）、島津家第9代忠國の弟季久が帖佐を領有し、新たに瓜生野城（建昌城の前身）を築き、長男忠廉とともに移り住んだ。その後文明十八（1486）年には忠廉は飫肥へ移り、同城の名前は一旦史料から消える。慶長五（1600）年、島津家久は島津家の本城候補として当城を強く推すが実現せずに鶴丸城にはいった。規模が大きく、西側は一部養鶏場建設で破壊されたが、主体部である東側が良好に保存されている。

縄張りは、東西方向に延びる大空堀が特徴的で、曲輪は大空堀の両側に、土塁と堀で方形に区画される。シラス台地を空堀で区画して、独立曲輪群から構成される一般的な中世山城とは異なり特徴的である。